

会 議 録

会議の名称	令和7年度 第1回枚方市都市交通会議	
開催日時	令和8年1月9日（金）	10時00分から12時00分まで
開催場所	枚方市立総合福祉会館「ラポールひらかた」 大研修室	
出席者	会長：土井委員 副会長：小山委員 委員：柳原委員、白石委員、山本委員、谷川委員、谷委員、朝田委員、 渡辺委員、畠山委員、大久保委員、田村委員、竹下委員、大畑委員、 田中委員、藤原委員、江藤委員、長尾(泰)委員、原委員、野中委員、 明智委員、長尾(祥)委員、浜田委員、赤井委員、迫間委員、大橋委員	
欠席者	北川委員、山添委員、大利委員	
案 件 名	【案 件】 (1) 都市交通会議の運営について (2) 会長及び副会長の互選について (3) 路線バス事業再編に関する協議フローについて 【報 告】 (1) 施策の進捗及び評価指標のモニタリングについて (2) 本市における福祉有償運送について (3) 各委員からの情報提供について	
提出された資料等の 名称	資料1：枚方市都市交通会議の運営について 資料2：関係例規 資料3：枚方市都市交通会議運営要領（案） 資料4：枚方市都市交通会議の傍聴に関する取扱要領（案） 資料5：枚方市都市交通会議地域分科会運営要領（案） 資料6：枚方市都市交通会議福祉分科会運営要領（案） 資料7：路線バス事業再編に関する協議フローについて 資料8：施策の進捗及び評価指標のモニタリングについて 資料9：枚方市における福祉有償運送（福祉移送サービス）について 資料10：各委員からの情報提供について	
決 定 事 項	【案件】 (1) 資料3～6について、原案のとおりとした。 会議を原則公開とし、会議録についても公表することとした。 (2) 会長に土井委員を、副会長に小山委員を互選した。 (3) 路線バス事業再編に関する協議は資料7のとおり進めることとした。	
会議の公開、非公開の 別 及び非公開の理由	公開	
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表	

傍聴者の数	1 名
所管部署 (事務局)	土木部 土木政策課
審 議 内 容	
<p>【開会】</p> <p>事務局 : ただいまより令和 7 年度第 1 回枚方市都市交通会議を開催します。</p> <p>令和 7 年 7 月の協議会におきまして、これまでの法定協議会に新たに地域公共交通会議の位置付けを加え、交通と福祉有償運送に関する会議体を統合することを説明させていただき、ご賛同をいただいたところです。その後、事務局にて組織体制の改編に向けた手続きや準備を行い、本日は組織改編後、枚方市都市交通会議として初めての開催となります。改めて会長と副会長を選出する必要があるため、選出までの間、事務局で進行役を務めさせていただきます。委員の皆様のご紹介は時間の関係上、配席図をもってご紹介に代えさせていただきますが、公募市民の方については今回新たに公募のうえ選任していますので、一言ご挨拶をお願いします。</p> <p>委 員 : (市民委員による挨拶)</p> <p>事務局 : 他の委員の皆様におかれましても、会議の中で活発なご意見をいただきますよう、よろしくをお願いします。本市から隣接市に跨って鉄道やバス路線が通っていることから、今回の会議体への移行を機に、隣接市である寝屋川市・交野市・八幡市・京田辺市にオブザーバーとしてご出席いただき、行政間の連携を強化していきたいと考えています。また、本市の主要関係部署として、総合政策部・健康福祉部・福祉事務所・都市整備部が出席しています。次に、本会議の主宰者である本市を代表して、副市長の小山から一言ご挨拶させていただきます。</p> <p>委 員 : 本市では、「持続的に発展し、一人ひとりが輝くまち枚方」の実現を支えるため、総合交通計画に掲げる交通の将来像である「枚方の安全・安心と元気を支える誰もが外出しやすく持続可能でグリーンな交通」の実現に向け、各地域の特性に応じて多様な移動手段を選択・組み合わせて快適に移動できる交通環境の整備に取り組んでいます。現在、地域公共交通の状況は非常に厳しく、特にバス運転士不足による路線バスの減便・廃止は全国各地で深刻な問題となっており、今後、本市においても現実のものとなる可能性があり、市民の移動手段に大きな影響を与えることが懸念されます。そのような中、本市には、市民の移動手段を確保するために最大限の努力をしなければならない責任があり、市民一人ひとりの生活を支え、安心して暮らせる街づくりを進めていくことが使命であると認識していますが、公共交通の維持には多くの課題が伴い、私たち行政だけでは解決できない課題も多くあります。このため、総合交通計画に掲げる「ひと・企業・</p>	

行政みんながつながり支え合う交通で未来のまちをつくる」との理念の下、持続可能な公共交通の実現などに向け、委員の皆様と共に取り組んでいきたいと考えていますので、お力添えをいただけますようお願い申し上げます。本日は、率直なご意見・ご提案をお聞かせいただけますようお願いしまして、簡単ではございますが、主宰者としてのご挨拶とさせていただきます。

案 件：都市交通会議の運営について

事務局：（資料1「都市交通会議の運営について」、資料2「関係例規」、資料3「枚方市都市交通会議運営要領（案）」、資料4「枚方市都市交通会議の傍聴に関する取扱要領（案）」、資料5「枚方市都市交通会議地域分科会運営要領（案）」、資料6「枚方市都市交通会議福祉分科会運営要領（案）」について説明。）
ただいまの説明内容について、ご質問・ご意見はありますでしょうか。

委 員：地域分科会について、交通空白地有償運送など様々な検討を進めることになるため、交通事業者や行政機関だけでなく、内容に応じて福祉部署や観光部署から意見をいただく運用が望ましいと考えます。

事務局：委員の皆様以外の関係者にも必要に応じて参加していただくよう、資料5にある運営要領に基づき対応します。庁内の委員会も含め、福祉部署や観光部署の意見も聞きながら検討を進めます。
その他、ご質問がなければ、事務局提案の運営要領および傍聴要領は原案のとおり決定したいと考えていますが、よろしいでしょうか。

（異議なしの声）

事務局：それでは、原案のとおり決定します。本会議の運営及び傍聴については、決定した要領に基づき、傍聴は原則として認め、会議録も公表する形式で進めていきます。次に、本会議運営要領第3条第3項に基づき、本会議の成立状況について報告します。本日の会議は委員総数28名中26名が出席しているため、本会議が成立していると報告します。
また、傍聴要領の第3項に「傍聴人の定員及び受付方法は、会場の都合により会長が決定する」とあるため、後ほど会長が決まり次第、決定します。各分科会運営要領の第3条では「分科会を構成する委員は、枚方市都市交通会議の会長が、都市交通会議の委員の中から指名する」とあるため、こちらも会長が決まり次第、決定します。

案 件：会長及び副会長の互選について

事務局：それでは、会長及び副会長の選出についてお諮りしたいと思います。枚方市都市交通会議運営要領第２条第２項の規定では、「会長及び副会長は、委員の互選によって定める」としてありますが、ご推薦などがありますでしょうか。

委 員：会長に土井委員、副会長に柳原委員を推薦します。

委 員：都市交通会議は多方面の議論が必要になると認識しています。公共交通の今後の在り方の議論において市として大きな役割を果たす必要があると考えているため、副会長には本市の小山委員を推薦します。

委 員：会長に土井委員、副会長に柳原委員と小山委員はどうでしょうか。

事務局：運営要領では副会長の人数指定はありませんが、他にご意見があればお願いします。

委 員：会長は土井委員で一致かと思われます。副会長については運営要領第２条第２項に「副会長は会長が必要と認める時、その指名により定める」とあるため、まずは会長を決定し、その後、副会長の指名を行うのが最善であると考えます。

事務局：それでは会長は土井委員でよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

会 長：本会議は規模も大きいため、委員の皆様のご協力と積極的なご発言をお願いします。副会長については、会長が不在時の議事運営の役割が重要であり、小山委員が担う方が事務的には運営しやすいと考えます。柳原委員には専門分野を活かして委員として協力していただきます。異論がなければ、副会長は小山委員で進めます。

それでは、会長として一言ご挨拶申し上げます。地域公共交通の現状について、公共交通の面では枚方市は比較的安定していますが、郊外の町ではバスの減便や廃線、タクシー事業者撤退などで市民の足が縮小しています。対して、市民活動は増えているため、公共交通の供給量とのギャップが拡大しています。この状況の解消が重要な課題であります。公共交通縮小の理由として収支のバランス悪化に加え、運転士や整備員などの担い手不足が大きな原因となっています。雇用環境の厳しさや他産業との人材競争もあります。これらの課題に対して解決策を見出す必要があります。市民の足を確保することが最終目的ではなく、その先にある「住みよく暮らしやすく魅力ある枚方の実現」が目標であります。そのための判断基準を持って議論すべきであり、より良い未来の枚

方を実現するため、公共交通の足の確保について議論していきたいと考えています。

事務局 : 会長より副会長には小山委員が推薦されたがよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

会 長 : 傍聴要領の第3項では「傍聴人の定員及び受付方法は、会場の都合により会長が決定する」とあります。傍聴希望者はできる限り傍聴可能としたいものの、会場の都合もあります。受付方法も含めて事務局としての考えはありますか。

事務局 : 会場の都合上、傍聴定員は10名以内と考えています。受付は会場入口で開催30分前より先着順とし、傍聴希望者は受け付け簿に名前と住所を記入し、会議の長の許可を得るものとします。また、傍聴の受付開始時に傍聴の希望者が傍聴定員を超える場合には、抽選により傍聴者を決定したいと考えています。

会 長 : 傍聴定員と受付方法につきまして、異論がなければ事務局案のとおりに決定します。本日の傍聴希望者はいますか。

事務局 : 傍聴については、1名の希望者がいます。

会 長 : 本日の会議は特に利害に問題になる、あるいは、個人的な情報について議論する場ではないため、傍聴を認めます。では、傍聴者の入場をお願いします。
また、本日の議事録は公表する旨、ご了承をお願いします。
先ほど事務局から説明がありました枚方市都市交通会議の下部組織として設置する地域分科会と福祉分科会に関して、各分科会運営要領の第3条では「分科会を構成する委員は、枚方市都市交通会議の会長が、都市交通会議の委員の中から指名する」とあるため、資料1の委員構成のとおりとします。

案 件 : 路線バス事業再編に関する協議フローについて

会 長 : 事務局から「路線バス事業再編に関する協議フロー」についての説明をお願いします。

事務局 : (資料7「路線バス事業再編に関する協議フロー」について説明。)

会 長 : ただいまの説明内容について、ご質問・ご意見はありますでしょうか。

- 委 員 : ステップ2の「バス路線休止・廃止等の届出意向」(原則として休止・廃止の1年前までに)について、この会議の場で意向表明をするのが原則として1年前との認識でよいのでしょうか。
- 事務局 : ご認識通りです。
- 会 長 : 事情は様々かと思いますが、可能な限り早くに意向を知らせることで対応策検討に十分な時間が確保でき、よりよい対応策の検討につながります。事業者の方にはご負担をおかけしますが、原則としてご協力をお願いします。ほかにご質問はありますでしょうか。
- 委 員 : 昨年9月に枚方市コミュニティ連絡協議会にて、ひライド(枚方市共助版ライドシェア)の説明がありました。せつかくの良い取り組みであり、地域の方に広く活用してもらうために具体性を高める必要があります。例えば、老人クラブやコミュニティを通じてなど、積極的に取り組んでいただきたいと思います。
- 委 員 : 資料7の沿線地域について、バス路線が休止・廃止になった際の地域との協議では、地域住民の要望全てに応えることは難しく、市職員だけで対応すると協議が難航する可能性があります。そこで、第三者である学識経験者の参画を得て客観的に地域状況を把握し、住民要望に偏らない組織体制の検討も必要であると感じます。
- 事務局 : 我々としても地域住民と職員だけでは議論が進みにくい部分もあるかと考えており、学識経験者の参画も含めて今後検討させていただきます。
- 委 員 : 地域分科会では、バス路線廃止への対応だけでなく、外出保障など交通そのものの在り方についても議論していただければと思います。
- 会 長 : 資料7のSTEP2【検討①を基に協議】休止・廃止又は代替の判断だけではなく、国との協議等により補助金の獲得を目指し、収入増加によって路線維持を図っていく方法もあります。また、資料記載の、代替交通の運行におけるPDCAサイクルの推進については、市のサポートが非常に重要になります。代替交通を運行する際には多額の費用がかかるため、予算面でのサポートも必要であると考えます。
- 事務局 : 委員からご指摘の地域分科会での議論内容は、原則路線廃止・休止への対応策検討ですが、その影響範囲内に公共交通不便地域がある場合には、考慮した上で検討します。市全体の公共交通不便地域への対応については本会で議論していきたいと考えています。

また、会長からご指摘の補助金活用の必要性や代替交通運行後の PDCA サイクルの推進に係る市の予算的サポートについては、これからの検討内容に応じて考えていきます。

報 告：施策の進捗及び評価指標のモニタリングについて

会 長：事務局から「施策の進捗及び評価指標のモニタリング」についての説明をお願いします。

事務局：（資料 8「施策の進捗及び評価指標のモニタリング」について説明。）

会 長：ただいまの説明内容について、ご質問・ご意見はありますか。

委 員：ひライド（枚方市共助版ライドシェア）の補助制度の拡大は素晴らしい取り組みです。枚方市は道路運送法改正前から福祉有償運送を推進しており理解があるのは良いと思います。ただ、担い手不足が大きな課題であり、資金面だけでは解決できないため、地域の協力を得て取り組みを拡大してほしいと思います。資料 8、17 ページの環境負荷の評価においては CO2 排出量が増加しています。資料に記載の通り、電気自動車やカーシェアリングの普及促進は重要ですが、車の利用を減らし公共交通に転換するという視点があっても良いと感じます。EV 補助は富裕層の利用促進につながり公共交通の推進と矛盾する面もあります。公共交通がなくなると車を運転できない人や移動弱者の社会参加が困難になるため、社会的公正の観点からも公共交通の推進が必要です。車の分担率を下げ公共交通を増やす視点も加えてほしいと思います。

事務局：ひライド（枚方市共助版ライドシェア）は、広く地域に周知し利用を促進するためにリーフレットを作成し、積極的な説明を進めています。また、CO2 排出量削減のために公共交通の利用促進への視点についても必要であると考えています。バス乗ってスタンプラリーをはじめ、引き続き公共交通の利用促進に取り組みます。

会 長：ひライド（枚方市共助版ライドシェア）の担い手確保は大事ですが、タクシーの利用促進も重要であり、今後の議論の選択肢として考えておく必要があります。また、電気自動車は環境負荷軽減になりますが、車や電気の製造も環境負荷を与えるものであり、車のライフサイクル全体の視点から見る必要があります。車利用の分担率を抑えることは、これからの重要な政策です。自動車からの公共交通の転換について考えると、送迎移動（家→駅→家）よりも公共交通単独利用の方が環境負荷は少なくなります。送迎利用の観点にも注目し、公共交通への転換を考えることが重要です。

委 員 : 資料 8、15 ページ記載の公共交通不便地域の地図については、高齢化が進むことで今後さらに外出が困難になる地域が増える可能性があります。ボランティア輸送に加え、幅広い移動手段の確保を引き続き検討する必要があると思います。

事務局 : 資料 8、15 ページに記載のとおり、公共交通不便地域が点在している状況のため、高齢化が進み移動困難者が増える可能性は極めて高いと認識しています。ボランティア輸送に限らず、幅広い移動手段の確保に努めていきます。

委 員 : 資料 8、17 ページの環境負荷の低減に関する情報提供ですが、国土交通省近畿運輸局交通政策部環境・物流課において、次年度に枚方市と京阪バス株式会社の協力のもと、市内の小学校で交通環境教室を実施予定です。未来の公共交通利用者となる子ども達に対し、バスの乗り方や環境教育を行います。その後も、市に継続的に実施していただけることを期待しています。

委 員 : 公共交通利用促進のためには、よりリアルな情報発信を行うこともひとつの手段です。例えば、乗車率が一定水準を下回った場合に廃止検討につながることを市民に周知している市もあります。ネガティブな情報も含めて発信することも検討していただければと思います。

事務局 : そうした事例は承知していますが、バス事業者のご都合もあるため、今後バス事業者と対話し、最適な情報発信について検討していきます。

会 長 : 実績評価指標は現状の把握が中心であり、これまでの意見を踏まえ、より良い施策推進をしたいと思います。

報 告 : **本市における福祉有償運送について**

会 長 : 事務局から「本市における福祉有償運送」についての説明をお願いします。

事務局 : (資料 9「枚方市における福祉有償運送（福祉移送サービス）」について説明。)

会 長 : ただいまの説明内容について、ご質問・ご意見はありますか。

委 員 : 資料 9、3 ページ記載の福祉移送サービス共同配車事業について、平成 20 年から利用者数が減少している理由は何でしょうか。

- 事務局 : 福祉移送サービス開始当初はタクシーの利用に様々な困難があり、多くのボランティアの支援により平成 20 年をピークに利用実績が多かったが、その後、社会環境の変化によりタクシーが利用しやすくなったことと、高齢化による運転手ボランティアの減少で、運転手の確保が難しくなったため、利用者数が減少しました。
- 委 員 : タクシーの方が利用者の希望により合ったサービスを提供できるようになったということでしょうか。
- 事務局 : 先ほどの説明への補足ですが、福祉移送サービスの開始当初、市民の方にはまだ馴染みが薄く、どこに連絡すべきか分からないとの声があったため、共同配車センターが福祉移送サービス事業者や介護タクシーとの連絡のつなぎ役を務めていました。しかし、利用者が一度利用するとその後は共同配車センターを介さずに、直接福祉移送サービス事業者に連絡するケースが増加したため、共同配車センターの利用数は年々減少しています。資料 9、4 ページの福祉移送サービスの利用実績を見ると、利用者数自体は大きく減少していません。
- 会 長 : 資料 9、4 ページの福祉移送サービスの利用実績を見ると、ここ最近は減少傾向にはありますが、福祉移送を求めている人が減ってきたということですか。
- 事務局 : 利用数は若干減少傾向にあります。共同配車センターに登録しているボランティアは 5 名で、そのうち 2 名は高齢者であり、担い手不足も一因となっています。そのため、今年度に福祉移送サービス運転者ボランティア養成講習会を実施し、来年度以降も継続する考えです。
- 会 長 : 福祉移送サービス運転者ボランティア養成講習会について、今のニーズに対応するための目標人数は何名でしょうか。
- 事務局 : 利用者は福祉移送サービス事業所のほかに介護タクシーなども利用しており、明確なニーズ把握ができていません。今後、検証を検討したいと思います。
- 会 長 : 利用者のニーズや実態把握を行ったうえで、福祉移送サービスの支援方法と介護タクシーに求める役割や対応範囲を明確にすれば、全体像が把握でき、取り組みへの理解も深まると考えます。
- 委 員 : 平成 15 年以降、国土交通省の指導でガイドヘルパーの自家用車による運送が禁止され、本市で福祉移送サービスが始まった経過があります。ガイドヘルパーの自家用車に

よる運送の禁止に伴い、社会状況は転換期を迎え、介護タクシー等への移行が進んだと考えられます。当時から外出のニーズは高かったが、タクシー等の利用には運賃負担の問題がありました。福祉移送サービスの導入により介護タクシーやタクシー全体の需要はカバーできたのではないのでしょうか。共同配車センターの廃止を含め、ニーズに合った仕組みへの再編を図るべき時期に差し掛かっていると思います。

委員：福祉移送サービスはドア to ドアのサービスで単独利用が難しい場合が多く、福祉移送の必要性は高いと考えます。氷室地区などではバス停が遠く、坂道が多いため、需要は大きいです。ボランティアの方には何度も講習会を実施していただいておりますが、70代、80代の高齢者の参加が多く、利用者・担い手双方の高齢化が課題となっています。共同配車センターでは介護タクシー事業者の協力も得ていますが、多くの利用者は年金等の収入のみであり、利用費用の負担が困難な場合も多いです。今回の会議では多様な計画やボランティア輸送施策が議論されているため、交通に困っている方々のために有意義なものにしたいと思います。また、今回実施する福祉移送サービス運転者ボランティア養成講習会はボランティアだけでなく、福祉移送サービス事業所の運転手にもなることが可能なため、福祉有償運送の運転手増加によって枚方市の交通環境改善に寄与することを期待しています。

報告：各事業者等からの情報提供について

会長：委員から「今年度の取り組みや交通に関する情報提供」についての報告をお願いします。

委員：（京阪バス株式会社より、事業環境について報告。）
資料に記載のとおり、今後の事業環境を考えると令和8年度には枚方市域のバス路線においても、一部廃止や減便を進めざるを得ないと思っています。具体的な内容は現在整理しており、できれば1月中にとりまとめを行いたいと思っています。
言うまでもなく、京阪バス株式会社にとって枚方市域は最も重要な事業エリアであるため、今後の対応については枚方市と協議したいと考えています。

委員：（西日本旅客鉄道株式会社より、ダイヤ改正及び枚方市東部地域（奥ひら）におけるツーリズム事業について報告。）

委員：（国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局より、「交通空白」の解消に向けた制度的枠組の構築及び兵庫県三田市ドライバー確保の取り組みについて報告。）

委 員 : (大阪府交通戦略室より、バス運転士確保支援及び共同化・協業化の推進について報告。)

委 員 : (大阪府枚方土木事務所より、R7年度の道路街路事業の取り組みについて報告。)

委 員 : (枚方市より、新名神高速道路開通目標の見直し及び枚方市駅北口駅前広場について報告。)

会 長 : 京阪バス株式会社の情報提供によると、令和8年度には枚方市域のバス路線においても、一部路線の廃止や減便の可能性があるということです。本日議論した協議フローにも関係するため、その内容は可能な限り早い段階で事務局へ報告し、事務局は速やかに対応検討に移行できるよう、本会議の開催方法については書面開催も含めて検討し、本会議開催後は地域分科会での検討を進める体制を整えて下さい。

今後の予定について

会 長 : 事務局から「今後の予定」についての説明をお願いします。

事務局 : 先ほど会長がおっしゃられたとおり、京阪バス株式会社より具体的な内容が報告された段階で、書面により本会議を開催することも含めて検討し、速やかに委員の皆様へ報告します。地域分科会も可能な限り早期に開催し、対応検討に入れるよう準備を進めていきます。地域分科会の委員の皆様にはご負担をおかけしますが、よろしくお願いします。

会 長 : 事務局の説明のとおり、次回の本会議の開催方法については書面により速やかに開催することも含めて検討するとともに、本会議開催後には地域分科会を開催して対応検討を進めるようにして下さい。

委 員 : 老人クラブにおいて障害者を対象に実施した福祉バスが非常に好評でした。今後、機会があれば情報提供させていただきます。

会 長 : 案件は以上になります。閉会にあたり事務局より何かありますか。

事務局 : 本日は大変貴重なご意見、色々な角度からのご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。次回は書面開催となり、地域分科会も始動するため、行政・事業者・市民団体の皆様には引き続き、お力添えをいただけたらと思います。会議録は事務局で案

を作成し、各委員にご確認いただき、その結果を会長と調整し、決定したものを会議資料とともにホームページで公表する予定です。

会 長 : それでは、これもちまして、令和 7 年度第 1 回枚方市都市交通会議を閉会とします。
以上